

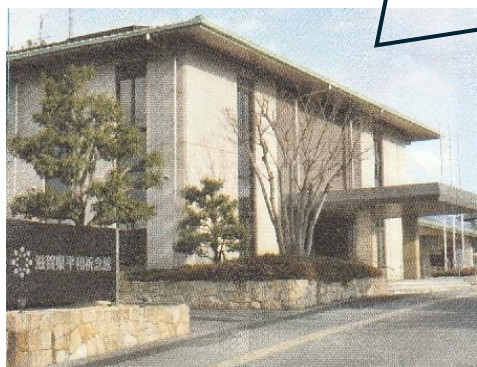
滋賀県平和祈念館で平和の大切さを学ぶNo.1

おおさかパルコプの「pal の p は Peace」です。平和とよりよい社会を目指しています。

“平和の思いをつなげよう”と毎年5月9日ピースリレーを行い、御堂筋を歩きアピールしています。

この想いを組合員さんに知って欲しくて、一緒に平和な社会を作って欲しくて、戦争を繰り返さないように過去の歴史を学びに行きました。職員さんからお聞きしたことと当時の写真を2回にわたりお伝えします。

滋賀県は、大阪などの都市部と比べると、戦争で大きな被害はありませんでしたが、戦争の記憶の伝承のため戦争の記録・記憶を展示しています。
県民協力のもと、この施設が出来上がりました。



昭和18年配給制度始まる。

小学校で手りゅう弾を投げる訓練 5年生で長刀訓練をする。

1942年頃金属供出が開始まり、鉄がなく陶器製の手りゅう弾を作る。

初めて本物の手りゅう弾、焼夷弾を持ちました。冷たくて、重くて、硬くて。恐ろしさを実感しました

偏西風に乗ってアメリカ本土に届く風船爆弾を作る。



当たるとソフトボール位の大きさになる。



焼夷弾は36本固まっているが落ちる時はバラバラになって地上に降り注ぐ。

勤労動員、学徒動員がおこなわれる。学徒動員(13~17歳)は手りゅう弾を作り、航空機の整備作業をする。実際沖縄戦に使用された。かつて学徒動員で従事した経験者は「当時は相手に被害を与えられると思っていたが、大きくなって(大人になって)考えが変わった。自分は被害者でもあるが加害者でもある」と。